



つゞじヶ丘だより東京

つゞじヶ丘同窓会東京支部会報



発行 函館西高等学校つゞじヶ丘同窓会東京支部 会長 新谷 義克
 〒136-0072 東京都江東区大島 8-41-15-215 TEL&FAX 03-5609-9881
 メールアドレス <jimu@td-tokyo.com>
 印刷所 株式会社 サンビプロダクトセンター 題字 細見 紀子(14 回生)

ホームページURL; <http://www.td-tokyo.com>

会長挨拶

会長 新谷義克
 (西高 1 回生)



会員相互の絆が薄い年です。できるだけ定期発行の会報で、皆様にニュースを紹介したいと思ひますので是非ご寄稿下さい。今回もありきたりの会長挨拶文でなく少し面白い話を紹介したいと思ひます。

皆様の健康のことと存じます。今年も総会がなくなると存じます。

私が 4 歳だった昭和 11 年、社会に衝撃をあたえた二つの事件が起こりました。といっても私が当時のことを覚えていたわけではありません。講釈師から聞いた話です。まず我が国最大の軍部クーデター事件、いわゆる 2・26 事件が起きました。軍内部で統制派と皇道派の派閥対立があり、皇道派の眞崎・荒木両大将と軍部独裁政権樹立に直接行動を主張する青年将校が結びつき天皇親政と急進的な大陸侵略を行なおうとして決起した

のです。近衛兵連隊の兵千四百名を動かし岡田首相、高橋蔵相、斎藤内大臣ら重臣を襲撃殺害し、官邸、陸軍省、警視庁を占拠しましたが、間もなく鎮圧され全員死刑となりました。その後は統制派が官僚と結託して政党政治を倒し軍部独裁体制の道を開き、太平洋戦争に突入しました。

この様な日本全体が暗いムードに包まれている時、5 月に阿部定事件が起きました。凄惨な事件ではありませんでしたが、何か珍妙にして滑稽であり、日本全国を明るく笑に誘った様です。事件は石田吉蔵という中野の料亭の主人が旅館で殺されたのです。犯人は駆け落ちした相手阿部定で 3 日後に捕まりましたが、予備審問で「これさえとっておけば吉蔵は私のものと思つた」といつて一物を懐に大切に持つていたそうです。当時「阿部定は胸に一物、手に荷物」と川柳に詠まれました。また現場写真によれば吉蔵は首に手拭を巻かれ、大事なもの切断されており、右大腿部には血で「定吉一人きり」と書かれていました。吉蔵はマゾの性癖があった様で弁護士は自殺幫助だと主張したが認められず殺人罪で入獄、昭和 15 年恩赦で出獄しました。

以上組織と個人の違いはありますが共に人間の欲望の結果起こった事件でした。

【本部長会長の挨拶】

つゞじヶ丘同窓会会長
 中山 浩一
 (西高 9 回生)



東京支部の皆様には輝かしい新春をお健やかに迎へることと心からお慶び申し上げます。

今年辰年という事で希望の持てる明るい世の中になることを願っているところでございます。

当地函館も昨年 3 月 11 日の大震災で、函館有数の観光スポットとして全国に知られる朝市やレンガ倉庫群などが津波の被害に遭い大打撃を受けました。また、風評被害も相俟って観光客は大幅に減少し、湯の川地区をはじめとするホテルや旅館などの宿泊施設ではキャンセルが相次ぐなど、当地の基盤産業である観光産業全体に暗雲が漂っておりましたが、昨秋ごろから徐々に回復し、お陰様で現在は平穩を取り戻しております。

明るい展望としましては、新幹線が 3 年後に函館まで延伸され、函館と新青森間が片道 45 分に短縮され日帰り圏内になることで、観光客の増加や街全体が活気づくことに期

待が集まっています。また、20年後には札幌まで延伸されます。しかしそこには新函館駅と函館駅間のJR在来線の経営分離による問題や、単なる通過駅になってしまいう可能性もあり、今後20年間に函館圏の人々が体力をつけ、「札幌には負けない」という気概がなければいけないと思っております。

大変な時代の変化を感じますが、「つゝじヶ丘同窓会」の発展のため精一杯頑張る所存ですので何卒よろしくお願い申し上げます。

東京支部の今後益々の発展と会員皆様のご活躍ご健康を心から祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。

* * *

東京支部活動報告

事務局長 高橋順吉

(17回生)

前会報での報告から今会報までの活動を以下に示します。

- 1 総会・懇親会開催(平成23年5月21日椿山荘)
- 2 学年幹事会 2回
- 3 常任幹事会 1回
- 4 事務局会議 5回
- 5 会計監査 1回
- 6 本・支部出席(函館、札幌、関西)
- 7 他校交流(中部、市立、函商、函工、ラサール)

- 8 東京臥牛会 1回
- 9 総務活動(総会準備、学年幹事会)
- 10 広報活動(会報、ホームページ)

なお2月18日の学年幹事会で今年度の事業計画及び単年度実行予算が承認されました。議事録はホームページに載っております。

収入	年会費	900,000
	本部補助金	30,000
	広告収入	20,000
支出	交流費	80,000
	旅費交通費	120,000
	会議費	30,000
	通信費	100,000
	会報印刷費	100,000
	会報発送費	230,000
	事務費	25,000
	雑費	5,000
	HP関連費	160,000
	同期会通信費補助	100,000
合計		950,000

現在、次回総会(平成25年5月18日予定)に向けて活動しています、会員の皆様のご支援ご協力宜しくお願いします。

◇ ◇ ◇

《第14回総会・懇親会報告》

佐藤雅英(18回生)

5月21日(土)正午、目白にある椿山荘で、少し汗ばむ気候の中、今まで各学年幹事を中心として開催されてきた運営方法を改め、事務局が企画・運営する、初めての総会・懇親会が始まりました。

会員204名来賓12名計216名の参加者で会場は熱気に溢れていました。事務局佐藤の司会進行で、郷内副会長の開会宣言、成田副会長の物故者法要・黙祷と続き、総会の議事進行を若林幹事長が勤め、会計報告・人事組織・会則改正の案件が承認されました。

懇親会は、新谷会長挨拶・来賓紹介の後、来賓を代表して本部の若山副会長のご挨拶を頂き、関西支部の富士会長の乾杯ご発声で始まりました。



途中のイベントでは12回生の外岡氏をメンバーとした「ブルーマウンテンボーイズ」がウエスタンを中心に懐かしい楽曲で出席者を魅了しました。

各種料理に舌鼓を打ちながら、お酒もほどほどに廻った後、恒例の

「港おどり」を3コーラスかけ、高女の大先輩の校歌斉唱、ちよっぴり若い西高の校歌斉唱に続き、高橋事務局長を中心とした元応援団有志による応援歌のエンターが披露されました。



(総会風景)

最後に小嶋顧問の閉会のことばで締めくくり、アメーzingグレースが鳴り響く中、午後2時30分お開きとなりました。

☆ ☆ ☆ ☆

他支部だより

23 年度つゞじヶ丘同窓会札幌支部定期総会を終えて

札幌支部長 林寿正(21 回生)

皆様に於かれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

昨年の東日本大震災から早一年、東北三県を中心に我が卒業生千五百名以上が何がしかの影響を受け、周辺地域を含めますととても心痛む状況だったようです。ここで被災された皆様にはこころよりお見舞い申し上げます。

さて、今回の総会では、一昨年の総会で東京支部会長新谷様とのお話合いがきっかけで、他校との同窓会交流へと発展し、手始めに三つの高校代表(中部、東、北)を初めてお招きさせていただきました。この真意は、ふるさと函館を母校とする同士が連携や交流を重ね、その絆を深めて将来的には「函館ふるさと会」札幌版なるものに進化させていきたい・今回はその準備段階と思つて計画致しました。他校の同窓会交流出席は普通あり得ない事ですが、結果的にいろいろな方々との絆が生まれ、会の運営方法や函館の歴史の奥深さを知る貴重な情報交換の機会としてとても有意義なものとなりました。勿論、これまでの同窓

会は同窓会として大切に継続していくつもりです。

東日本大震災や清水寺の漢字一文字でも見直されましたが、今こそ様々なご縁ある方々との繋がりが・絆を大切に育んでいく必要があるように思います。

もう一札の話題は、18 回生の作家佐藤泰志の小説「海炭市叙景」が映画化された事でした。作品は札幌でも追加上映が何回も繰り返すほど話題となり、実際の内容も函館山から初日の出を見るシーンや函館ドック最後の紅白のクレーン映像にはとても感動致しました。ラストシーンでは、それまで様々な事情を抱えて生きてきた人々が、電車の中で一同に乗り合ふ場面は、まさに人間社会の原型を映し出しています

し佐藤泰志の真骨頂シンのように思いました。観賞の後の映画談議ではとても誇らしい気分となりました。第二弾も計画予定とか・・・今回は役員改選の年でした。より良い同窓会を目指して総勢 20 名以上の幹事によつてこの会を運営させて頂いておりますが、多少の役職の変更や新加入のご協力をいただきますながら新体制がスタートしております。このあと引き続き幹事の皆様とご一緒に盛り上げていきたいと思ひます。

札幌支部のテーマ「皆様の、皆様による、皆様のための同窓会」として、全国魅力度調査での函館市と札幌市、一と二位独占の幸せを噛みし

めながら、素晴らしい自然環境の中でお互いの絆をますます深めていきたいと考えております。ありがとうございました

× × ×

回生だより



(9 回生)

函館での同期会で充実の一日

昨年の関東での旅行会は、3 月に湯河原温泉一泊と初島巡りで、考昭天皇と初木姫の神話に会えるかな、なーんて、思っていましたら 3 月 11 日の震災で中止しました。

例年の函館での開催も危ぶまれていましたが「みんなで東北と共に頑張ろう」との一声で開催が決まり震災で浸水の被害を被った郵船の浜、「ラビスタ函館ベイ」で開かれま

した。席上被災地で医療に従事している仲間二人が、貴重な体験と救済活動を、ビデオで映しながら説明してくれました。自然の災害とはいえ、漫然と過ごしていた私達に改めて自然の凄さと恐ろしさ、文明の未熟さと、人の絆の大切さを実感しました。そして原発を含め文明のあり方や人間の暮らし方を考えさせるも

のでした。東北各地の一刻も早い復興を願って止みません。

当日は朝からゴルフとパークゴルフも開催され、会食後の二次会は同期の経営する「ユアーズ」で夜が更け、「反省はサルでもできる」と言いながら元気な 71 歳でした。当日の様子はネットでご覧ください。

(徳田紀美子 記)

(10 回生)

古希の良き思い出に

平成 23 年 10 月 15 日函館「五島軒」に於いて我々 10 回生「珊瑚会」(昭和 35 年卒)の「古希を祝う会」が開催されました。出席者は 93 名。

記念撮影の後、校歌を斉唱して、会長：山口道雄氏と札幌：長谷部和夫氏が挨拶を、東京：小嶋俊昭が祝杯の音頭をとつて、「祝いの宴」は開始されました。その後、クラス紹介で出席者全員の名前が呼ばれ、10 卓のテーブルで「旧交を温める」言葉と、「ついに 70 歳になったヨ：」等の会話が交わされ、「アつと言う間」に 2 時間半が過ぎました。

終宴が近づき、応援歌と校歌を再度斉唱して、広島：上野尚春氏が締め挨拶をされ、最後に幹事長：中村公一氏が「次回は 2 年後に開催します！」と宣言をして、お開きとなりました。

次回の「珊瑚会」は、平成 25 年 10 月に函館で開催される予定です。

(小嶋俊昭 記)



支部10回生の集まりは、本年2月8日、有楽町のニュートーキョー本店で催され、有志20人が集いました。遠く名古屋から駆けつけてくれた人や初参加者が4人もいて盛会でした。昨年古希を迎え、依然元気な人が多い反面、体調を崩して参加できない人も目立ちました。支部顧問の小嶋君から、震災で被災した大船渡市越喜来地区に住む、同期の内藤善久君(岩手大学名誉教授)が中心になって地元住民とともに荒廃した土地を牧草地に転換し、羊を放牧して、地元を美しい景観にし、地元の早期復興を図る目的でNPO法人を設立した話が資料とともに紹介され、協力できる人を募りました。今年も、函館での同期会「珊瑚会(35年卒)」が無い年なので、東京で年内にもう一度集まる予定です。

(福井達郎 記)



(11回生) 参加者120名の大盛況

11月4日、卒業50周年記念同期会を函館湯の浜ホテルで開催しました。平成18年に、西高創立百周年の記念行事に合わせ、卒業45周年の同期会を行った時に、5年後の卒業50周年を是非やろう!という声を受け今回の開催となりました。奇しくも「古希」を迎え、卒業後半世紀たつてこうして再開できたことに喜びと感動を分かち合いました。

午後6時に記念写真を撮影後、司会者の進行で物故者弔意の黙とう、代表幹事のあいさつと続き、祝杯で宴がスタートしました。今回は120名の多くの出席で大祝賀会となり旧交を温めました。出席された石塚善朗先生が、西高を背景に生徒が坂道を登校する風景を描いた自作の版画を、出席者一人一人に手渡ししてくれたことが、思いもよらぬプレゼントとなりました。

宴は、二次会、三次会と続き、夜が更けるのを忘れて楽しみました。そして4年後の平成27年、北海道新幹線函館開業時の再会を誓って記念同期会は終了しました。

(守村禎太郎 記)

(13回生)

今秋10月20日函館に集まろう!

昭和63年函館での第1回同期会翌年第3回つゞヶ丘東京支部総

会后、東京での同期会が開催されるようになり、何かことあるごとに召集しております。新年会、忘年会と、飲み会主流より数年前より奥多摩でのバーベキュー、尾瀬散策、屋形船遊覧、高尾山と郊外での会も増えつつあります。昨年は、小玉正義君が定年退職後、8月の「日の出町町議選」に立候補、見事当選と新たな船出、本年は10月20日(土)に函館「はなびし」にて同期会開催が決定しました。

(三村寿雄 記)

(14回生)

今春、東北に同期会旅行を実施

14回生有志は、2年に1度の支部総会のない裏年に同期会旅行を行っています。前回は福島県の小原温泉、裏磐梯、会津若松の旅で、22名の参加でした。

今回は、震災で被害を受けた東北支援をかねて、昨年世界遺産に登録された平泉の中尊寺を中心に、5月13日から2泊3日の旅行を計画しております。函館、札幌からの参加を含めて27名ほど参加予定で、自家用車6台で全行程を移動する計画です。

旅行の時期が会報発行と重なり、結果はホームページにアップしますが、去る4月9日には東京からの参加者12名が都内某所に集まり、壮行会?を開催しました。

(佐々木太郎 記)

(17 回生)

今秋の東京同期会で再会の杯を

平成 23 年は大惨事の為、例年実施している札幌・函館・仙台・東京在住の合同同期会が中止となりました。開催場所が東北であり、4 月実施予定でした。参加予定メンバーにも災害が降りかかりました。自宅が被災したり親族が行方不明になったりと大変な年となりました。しかし東京支部同窓会(総会)後に「5 月の東京支部同窓会には出席出来なかつたが、来年の合同同期会は、例年通り実施したい」と元氣な連絡があり、安堵しました。今春も東北復興の為に東北(乳頭温泉、角館)で開催します。さて東京同期会は、昨年 11 月 22 日池袋にて 11 名が参加して開催しました。例年より少なく残念でしたが、函館からの参加も有り、時間を延長しての懇親会となりました。欠席理由も体調不良が多くありました。これからの人生を楽しむ時間です。本年の東京同期会は、秋(10)11 月頃実施予定です。今まで出席していない方、是非再会をしましょう。事務局までご連絡下さい。

(竹澤秀明 記)

(20 回生)

還暦同期会・西高 20(はたち)会開催

西高卒業から 42 年が過ぎ、ついに 18 歳で卒業した少年少女が還暦を迎える事になった昨年、予定通り

の? 還暦にあわせて 10 月 9 日に函館市五稜郭の「ホテル法華クラブ函館」において 1 組〜 10 組の 118 名が集まり、盛大に同期会・西高 20(はたち)会が開催されました。

出席出来る先生が残念ながら少数になつてしまいましたが、来賓として倉地基雄先生(5 組)と井上昌博先生(4 組)のお二人を迎える事ができました。

同期会は 5 年毎に一度の間隔で開催して今回で 5 回目。還暦に合わせたので 6 年目の開催になりましたが、仲間は良いもので 40 年以上の記憶の狭間を一瞬に往復しながら遠慮なく会話が弾み、恩師を囲みながらのひとときは「最高」のひと言でした。そんな時間を惜しむように、その後は 2 次会・3 次会・・・と楽しく長い夜を過ごす事になり、何人が正しい朝を迎えたことか。

今回も各クラスの代表が昨年春から集まり、打ち合わせ等に尽力。このような盛大な同期会が開催できた事に出席者がみな感謝の気持ちを持つたことと思います。次回も友が元気で集まれるようにと別れた事は言うまでも有りません。マタナア〜って! (高村 亨記)

(27 回生)

少ない参加者が悩み、集え 27 回生

27 回生の同期会は、大体年 2 回開催しております。昨年は、前年の忘年会が年越しで 1 月 28 日に恵比寿

のスペイン料理店にて 9 名で、夏は 9 月 10 日に大江戸温泉にて、ゆつくりお湯につかったの懇親会を 6 名で、忘年会を 12 月 11 日に新宿の居酒屋で 6 名で実施致しました。

また臨時に 10 月 2 日にコンサドーレ札幌の J1 昇格応援に国立競技場の対横浜 FC 戦を観戦し、祝杯を 5 名であげました。

このところ仕事や家庭でみなさん忙しく、参加人数が少ないのが悩みの種です。年 2 回の開催ペースは続けるつもりですので、是非ご参加下さいます様お願い致します。

(野口卓史 記)

(32 回生)

懐かしのつゝじヶ丘、西高界限

私達 32 回生は、中庭につつじが咲き誇った旧校舎、旧白百合校舎で西高時代を過ごしました。

平成 23 年 5 月 21 日、初めて目白の椿山荘でのつゝじヶ丘同窓会東京支部総会・懇親会に出席させて頂き、やつと同窓生になれたという感じがします。2 年程前インターネットで、函館西高等学校のホームページにアクセスし、つゝじヶ丘同窓会東京支部の門をくぐりました。函館を離れて 30 年経ち、とても懐かしい想い一杯で、ホームページを拝見しました。早速事務局の先輩方より「つゝじヶ丘だより東京」を送って頂き、感謝感激し何度も読みました。私達後輩も、先輩方、次世代の後輩

達に向けまして、肩の力を抜いた、世代を超えたコミュニケーションが取れたらさぞ楽しいと思います。



子供の頃から風光明媚な函館の街、特に西部地区はお気に入りです。よくスケッチブックを持ち、歩き廻っていました。西高時代も美術部に所属し、ハリストス正教会やカトリック教会、数々の坂から函館を一望、スケッチしたものです。学校帰り、友人と一緒に八幡坂を下り、金森倉庫群を横目に見ながら、一息ついた楽しいひととき。次々と、思い出が浮かんでまいります。

函館西高のさらなる発展と、同窓生の皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。(佐々木雅子 記)

『投稿』



私のイクメン時代

竹澤秀明（17 回生）

小生、還暦をチョイと過ぎた団塊世代である。巷ではイクメン（育 Men）がもてはやされているが、若い頃はモーレッツ、会社人間が多く、小生も仕事、先輩との付き合いは当然の事としていた。嫁さんと知り合い、1 年がかりで両親を説得しゴールイン。小生の給料のみでは心もとなく共稼ぎになった。

小生は営業で、帰宅時間は当てにならない。嫁さんは当時の呼称では看護婦、病棟勤務になり 3 交代制で二人が一緒に休めるのは月に一度という生活。すれ違いと嫁さんの万年睡眠不足でイライラによる喧嘩もときどきあった。

しかし子供が誕生、生活・価値観・人生観が変わる事となった。嫁さんは病院が忙しく、産休もそこそこに職場復帰。嫁さんが看護師である故の育児戦争が始まった。嫁さんが深夜勤のときは、小生が

朝乳飲み子を病院に連れて行き、嫁さんが引取り帰宅する。首の据わっていない子供を抱き、背広姿で満員電車で突進乗車したものである。しかし不思議に小生の周りにはいくらかゆとりが出来る事が多かった。やさしい時代だったのか。

預ける時オシメを変えなければいけない。オシッコだけならいいが、ウンチの時は時間がかかる。預けるや否やダッシュ、何とか 9 時に間に合わせた。

夜勤のときは嫁さんが病院に連れて行き小生が保育室で引取り帰宅する。17 時終業で 20 分後には退社するために、仕事の段取り、根回しを何日か前からした。退社する時「家庭を会社に持ち込むな」とよく上司に怒られ、時には言い返し険悪になったことも。

嫁さんとは報告、連絡、相談を台所のホワイトボードに書いて確認していた。会社業務の基本を知らず知らず鍛えていったように思う。

第二子が誕生して育児戦争はさらに激烈になった。乳児は病院の保育室、上の子は区の保育園と二か所を回る事に。

二人を連れて電車出勤とはいかず、車購入を決意。中古車を探している、会社で配送をお願いしていた運送会社の社長から「車検切れの車ならタダであげるよ」と。日焼けですっかり色落ちした 2 世代前の車であった。嫁さんもビックリ。それでも車用ペイントスプレー

で、丸々一台塗り替え、この時代大いに助かった。普段いろいろな人達と良いお付き合いをしておくものだと思つた。

6 時には車で家を出（もちろんオシメを替え、ミルクを飲ませ）、車中でパンやおにぎりを食べ、あやしながらの通勤であった。遅刻でもしようものなら上司（結構二日酔いの遅刻、嘘の直行が多い）とトラブルになるため、意地でも頑張った。

暫くして下の子が保育室を出て保育園に預けなければならなくなったが、区の方針で兄妹同時には預かれないというので、仕方なく民間の託児所に預けた。

乳児は母親の免疫で比較的丈夫であるが、離乳食が始まるといろいろ不都合が現れてくる。上の子は小児ぜんそくで、激しい発作は不思議と深夜に出る。その度に病院へ行き吸入機による治療を行う。日中は吸入薬を携帯させた。正座して苦しさに耐えている子供を見ると、仕事の疲れや眠気も吹っ飛んでしまう。3 才から嫌がる水泳教室に通わせてようやく克服できた。

上の子が 6 才になり小学校入学、下の子は幼稚園。カギつ子にしたくなかったので、嫁さんと相談し仕事をやめてもらった。上の子が高学年になり下の子の面倒を見られるまで、つかの間の普通の生活が続いた。

嫁さんが仕事に復帰し別のイクメンが始まった。食事は嫁さんが簡単に済ませるが、夕食は嫁さんが

支度出来ない日は小生が「ヨシケイ」から届いた食材を、レシピを見ながら調理し準備した。小生の帰宅が遅くなっても子供たちは待っていてくれた。

大学時代節約のため自炊をしていたし、料理は嫌いではないが、当番の日に飲み会に誘われて断ることで嫌味はよく言われた。しかし会社は働いている間の付き合い、家族は一生の付き合いである。

子供とはよく家族旅行、特に金のかからないキャンプに行った。高価なキャンプ道具は買わず、家のナベ等を持って出かけ、少しでも自然に触れる事を願った。娘の結婚式でも楽しい旅行の思い出に感謝の言葉をももらった。

とりとめなく書いてきたが、小生（と嫁さん）の子育てが良かったかどうかは子供達が判断するものである。現在の小生達は最高に幸せだと思つている（自分だけかも）。

今は孫。孫は無条件に可愛い。小生のイクメン時代と違い、落ち着いた家庭環境にあることは喜ばしい。最後に、世のお父さんは肝に銘じておくことがある。嫁さん曰く、「娘とは姉妹、息子とは親子、お父さんとは他人」。イクサイ（育妻）も大事である。相方のイクダン（育旦那）の術中にはまっていたのかもしれない。

（編集の都合で原文を大幅に短縮しました。原文は東京支部のホームページでご覧になれます。）

函館の歴史(6)

函館検定公式テキストブックから

第 1 章「歴史」

箱館開港

箱館戦争は、1868年(明治元年)1月3日京都の鳥羽、伏見に始まった戊辰戦争の最後の戦いです。鳥羽、伏見の戦いは、やがて江戸・北関東・東北と広がり、北上してきました。

8月19日、徳川家の処遇に不満を抱いていた旧幕府海軍副総裁榎本武揚率いる艦隊が東北諸藩救援のために江戸湾を脱走します。また、大鳥圭介率いる陸軍も江戸を脱走し東北へと向かいます。しかし、東北諸藩の連合(奥羽越列藩同盟)が崩壊し、両軍は仙台から蝦夷地へと向かうこととなります。蝦夷地へ向かった理由は、新政府のもとで、蝦夷地を開拓し徳川家臣の存続を考えたためでした。

10月20日、旧幕府脱走軍は、既に外国に開港していた箱館での戦闘を避けるため、鷲ノ木(現森町)に上陸し、蝦夷地上陸の意図を箱館府(新政府の機関)に到達しようとしましたが受け入れられず、戦端が開かれることになりました。鷲ノ木に上陸した旧幕府脱走軍は、大鳥圭介隊と土方歳三隊の二手

に分かれ箱館を目指し、大鳥隊は峠下(現七飯町)と大野村(現北斗市)で、土方隊は川汲峠(現函館市)で戦いとなり、これに勝利し、五稜郭で戦況をみていた箱館府知事清水谷公考は、自軍の全軍敗走を聞き10月25日に青森へ退却しました。10月26日、大鳥隊、土方隊は無人となった五稜郭に入り占拠。同日、旧幕府脱走軍艦隊の回天・蟠龍の2艦が箱館港に入港し、箱館の街と五稜郭は旧幕府脱走軍の占領下となりました。

箱館を占領した旧幕府脱走軍は、新政府の側についていた松前藩に対し降伏を促しましたが受け入れられず、10月28日、土方隊約8百名が松前に向けて出発、数度の戦いの後11月5日、松前福山城を攻め落とします。

一方、江差に向かった松岡四郎次郎隊は、二股(現北斗市)、稲倉石(現厚沢部町)の戦いに勝利し11月15日、館村(現厚沢部町)の松前藩の新城を攻め落とします。松前藩は全滅し藩主松前徳広は熊石(現八雲町)から青森に退却、弘前で亡くなったことにより、旧幕府脱走軍は、蝦夷地南部を占領することとなります。

この戦闘の間に旧幕府脱走軍の主力艦開陽が江差港で暴風雪により座礁沈没し、その後の戦力に大きな打撃を与えることになりました。12月15日、江差・松前地方を制圧した旧幕府脱走軍は、朝廷からの蝦夷地開拓の許可がおりるまでの措

置として陸軍の整備も行いました。

一方、蝦夷地を占拠された新政府は蝦夷地奪還の準備を整え、アメリカから甲鉄を手に入れ、海軍の主力艦として宮古湾に集結しました。旧幕府脱走軍は、甲鉄奪取の作戦にのり出し、回天・蟠龍・高尾の三艦による共同作戦を敷いたが、暴風雪に遭い1869年3月25日、回天のみが宮古湾にのり込みました。しかし甲鉄の攻撃に敗走し作戦は失敗しました。準備の整った新政府軍は4月6日青森港を出港し9日乙部に上陸、江差を制圧し、そこから厚沢部・大野を進攻する隊、木古内に進攻する隊、松前に進攻する隊に分かれ、箱館を目指しました。

松前に向かった隊は、17日福山城を奪回、22日には江差から木古内へ向かった隊と合流、13日二股で土方の隊と激戦となり戦闘は29日迄続き、土方隊の後方を守る矢不來を新政府軍が攻め落とすため土方隊は撤退しました。新政府軍は、有川(現北斗市)付近に滞陣し青森からの補給を待ち、箱館総攻撃の準備を整えます。

5月11日午前3時、新政府軍の箱館総攻撃が開始されます。旧幕府脱走軍の陸軍は各方面で敗走し土方歳三などの指揮官も戦死。旧幕府脱走軍は、五稜郭、弁天岬台場、千代ヶ岡陣屋を残すのみとなりました。新政府軍による箱館総攻撃の翌日には、甲鉄の艦砲射撃により五稜郭にいた兵士が死傷、兵士達にも動

揺を与え脱走する者もいました。新政府軍による降伏勧告が12、14日にかけて行われましたが、不成功に終わりました。15日弁天岬台場の箱館奉行永井玄蕃以下240余名が降伏、16日千代ヶ岡陣屋で徹底抗戦をしていた中島三郎助親子らが戦死、17日榎本武揚、松平太郎、荒井郁之介、大鳥圭介が新政府軍に出頭し、18日五稜郭が明け渡され、鳥羽・伏見の戦いに始まった戊辰戦争は箱館戦争の終結とともに終わりを迎えました。箱館戦争に参戦した旧幕府脱走軍の兵士約3千名、新政府軍の兵士は約1万人、戦死者は、旧幕府脱走軍が約8百名、新政府軍が約3百名でした。箱館戦争で被害を受けた市民も数多くいました。

木谷勝子 記(13回生)

個人の尊厳を大切に、その人らしさをいつまでも...

八王子	特別養護老人ホーム	偕楽園ホーム
岐阜	特別養護老人ホーム	瀬戸の里
函館	特別養護老人ホーム	戸井湖寿荘
岐阜	特別養護老人ホーム	みずなみ瀬戸の里
岐阜	特別養護老人ホーム	ニッ森ホーム

2008年、岐阜の「瀬戸の里」が優良民間福祉施設として天皇陛下より表彰されました。

医療法人社団新谷会 **新谷医院**
医学博士 新谷義克 (西高1回生)
 東京都府中市朝日町 2-30
 TEL.042-361-9419

物故会員

次の方々は、昨年以降事務局へご連絡をいただいた物故された会員のお名前です。ご冥福をお祈りいたします。(敬称略)

藤田和子(高26)、長谷川杏子(高27)、八木沢静枝(高27)、長沼満子(高29)、三谷永子(高29)、石原雪子(高30)、小島京子(高30)、兵頭美恵(高30)、大橋昭子(高36)、本田ヒサ(高37)、松田園子(高40)、富山晶子(高41)、鶴沼けい子(高41)、高橋冴子(4)、木立雄之助(4)、木寺達(7)、柴田英昭(8)、杉山康治(10)、木島豊(11)、本間鉄次郎(11)、金谷郁夫(11)、松田隆氏(14)、羽川和男(22)。

〔平成23年度つゝじヶ丘同窓会東京支部会計報告〕

自平成23年1月1日
至平成23年12月31日

Table with 4 columns: 収入の部 (科目, 金額), 支出の部 (科目, 金額). Rows include 前期繰入金, 総会・懇親会収入, 祝儀, 年会費(振込), 年会費(現金), 本部補助金, 広告収入, 雑収入, 預金利息, 収入計, 合計 for both sections.

〔繰越金内訳〕 日本郵政 2,812,686
現金 119,100
合計 2,931,786

以上会計事項について監査の結果、適正に処理されているものと認めます。
平成24年1月14日 会計監査 森 加代子(13回生)

東京支部役員及び事務局

・常任幹事会

〈会長〉新谷義克(1)、〈副会長〉成田慶子(女高2)郷内繁(4)、〈顧問〉小西弥生(高女38)小嶋俊昭(10)、〈幹事長〉若林英毅(11)、〈副幹事長〉佐々木太郎(14)、〈会計〉堀内洋子(14)、小林多美(24)・事務局局長 高橋順吉(17)、〈常任幹事〉齋藤勝美(13)竹澤秀明(17)佐藤雅英(18)川瀬俊吉(19)、〈書記〉若林郁雄(14)高村亨(20)、〈会計監査〉森加代子(13)。
〈総務〉三村寿雄(13)野口卓史(27)。〈広報〉長津俊(13)井田ゆき

会員の皆様にお願

母校への恩返し、「支援に同窓会年会費(2000円)納入を

子(20)平友則(21)西山和子(23)野口孝子(24)中野恵子(24)中川喜久則(31)佐々木雅子(32)。

〈編集後記〉

す。今まで同窓会のコンペが無かつた事が不思議・・・多くの参加者のご連絡を望んでおります。ご連絡は、左記世話人迄お電話ください。
三村寿雄(13)090・8513・4497
竹澤秀明(17)090・6797・7092

わが母校・函館西高の卒業生で、関東に在住の方々は、『つゝじヶ丘同窓会東京支部』の会員です。ホームページを運営し、年1回の会報発行、同期会開催補助、2年に一度の総会&懇親会開催、他校同窓会との交流などの活動を行なっています。
『つゝじヶ丘同窓会東京支部』の灯を消さないために、後輩のためにそして母校への恩返しに、皆様からの積極的なご支援(年会費)を切にお願い申し上げます。年会費の納入には同封の振替用紙のご利用をお勧めします。記入の手間や振替料金が軽減されます。
事務局では、事務局活動にご協力いただける会員を募集しております。ご協力いただける会員は事務局にご連絡をお願いいたします。
☆☆☆

『ゴルフ仲間募集』



つゝじヶ丘同窓会のゴルフコンペを今年秋に開催予定しております

○第8号は、本部会長のご挨拶や、竹澤さんの「イクメン時代」、回生だよりなど、寄稿が中心の紙面となりました。会報及びホームページ「会員だより」に、会員の皆様のご投稿をお待ちしております。送付先は、jimmi@t-tokyo.com(事務局メールアドレス)へ。
佐々木太郎 記(14回生)